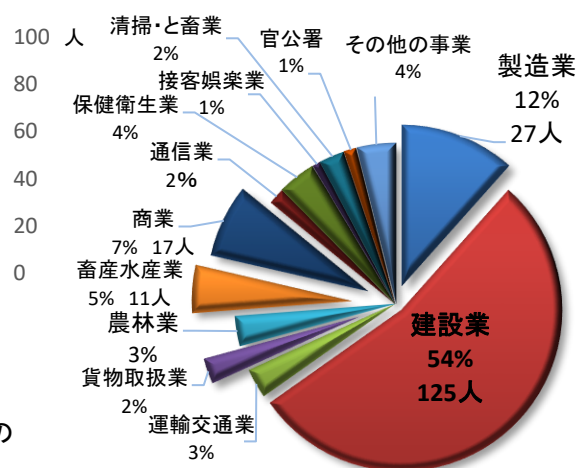
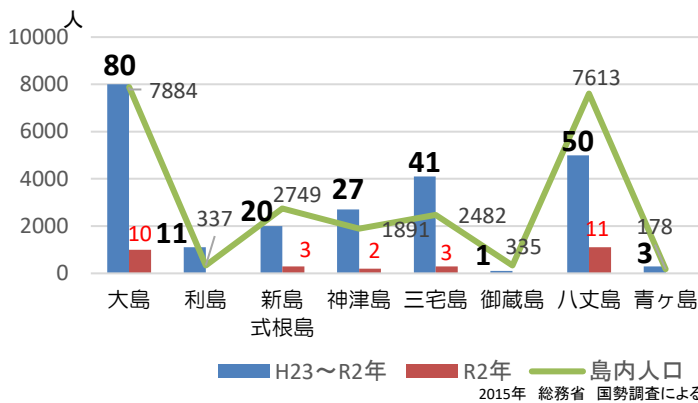


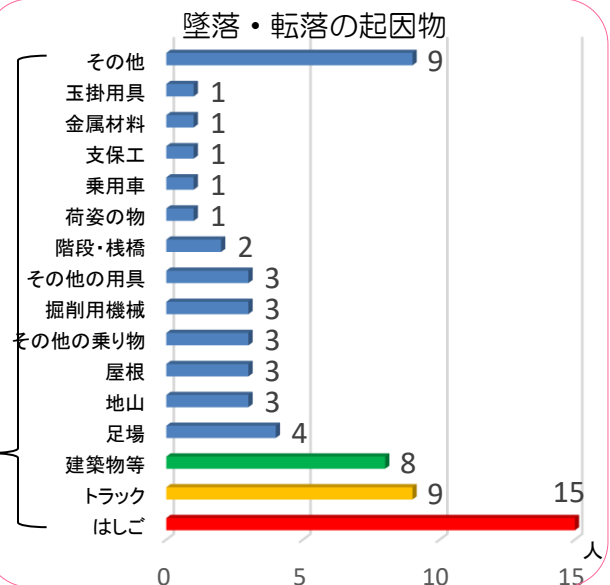
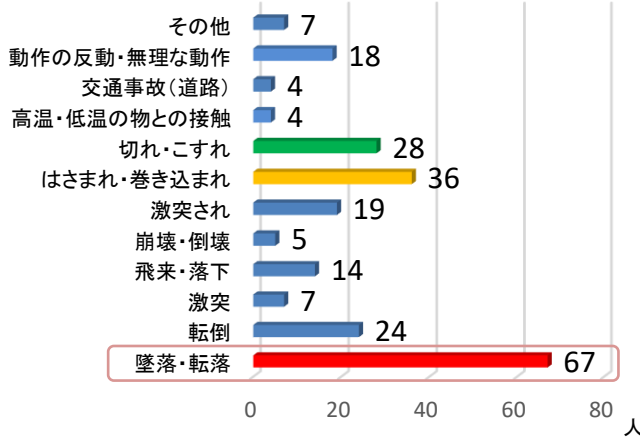
島しょ(伊豆諸島)における労働災害発生状況

過去10年間(平成23年～令和2年)の労働者死傷病報告[様式第23号]による



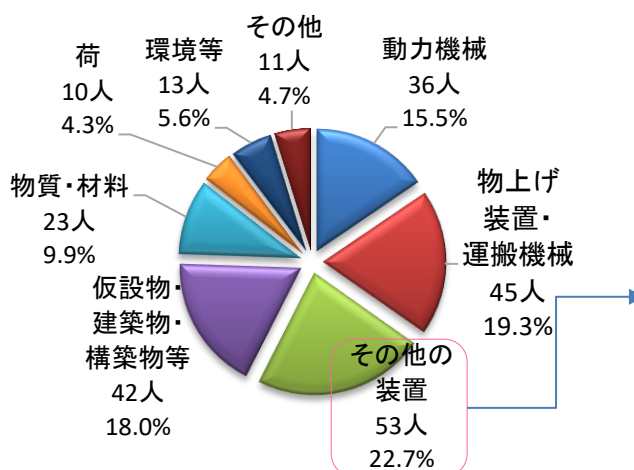
平成23年～令和2年における伊豆諸島における休業4日以上
の労働災害(労働者死傷病報告による)は、233人発生しています。
上の図は、各島における労働災害件数と人口(非労働者を含む総
数)との関係を示しています。
業種別に見ると(右上)、建設業が過半数を占め、以下、製造業、
商業、畜産水産業と続いています。

事故の型別災害発生状況

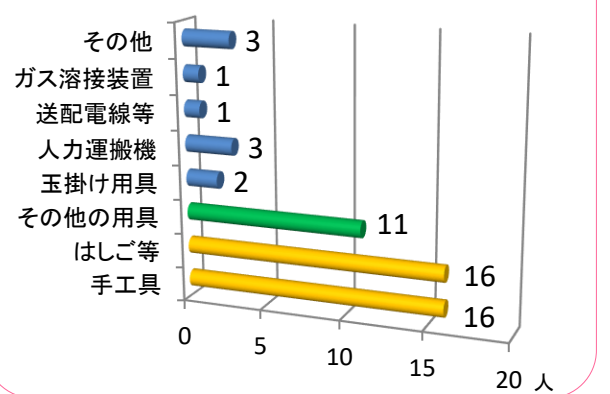


事故の型別に見ると、墜落・転落が突出して多く、続いて、はさまれ・巻き込まれ、切れ・こすれの順となっています。
最も多い「墜落・転落」の内訳では、はしごやトラック(の荷台など)からの転落が目立っています。

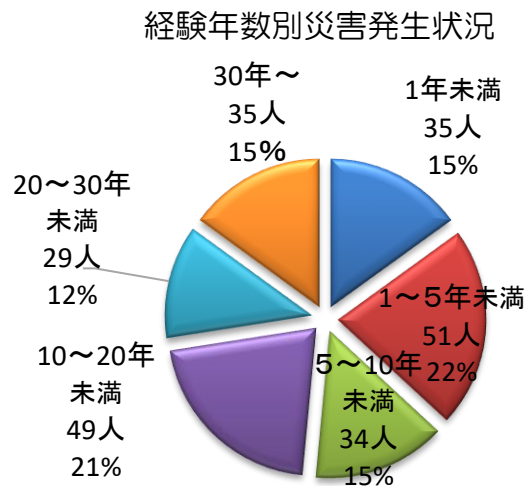
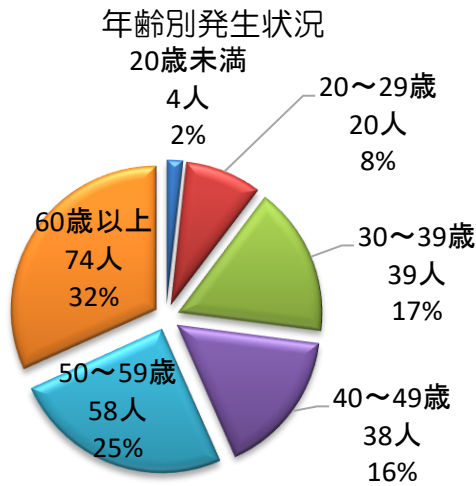
起因物別災害発生状況



起因物「その他の装置」の内訳

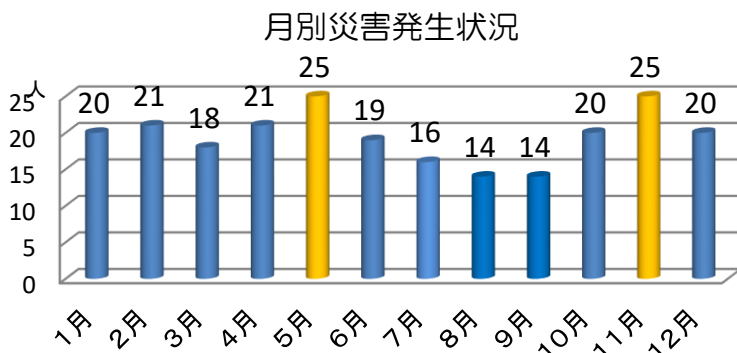


起因物別に見ると、動力機械、物上げ装置・運搬機械、その他の装置、仮設物・建築物・構築物等が多
なっています。最も多い「その他の装置」(53人、22.7%)の内訳では、手工具、はしご等、その他の用具が多
く、全体の8割超を占めます。



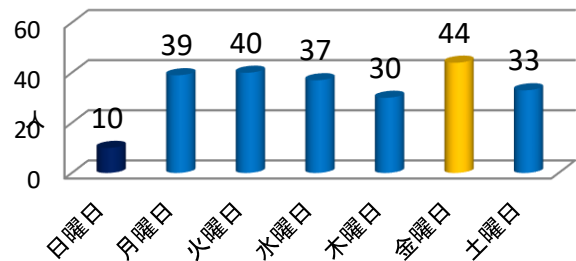
年齢別発生状況を見ると、10～20歳代までが少ない一方で、50歳以上の高齢労働者が過半数となっています。

経験年数別発生状況を見ると、経験の浅い1～5年未満が最も多いですが、経験10年以上のベテラン労働者によるものが半数近くを占めています。

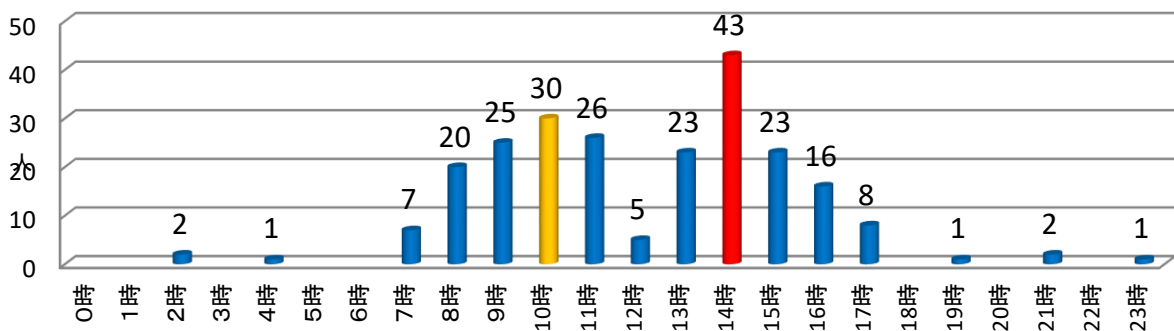


月別発生状況(左図)を見ると、5月、11月が多く、8月、9月が比較的少ない傾向にあります。

曜日別発生状況(右図)を見ると、日曜日以外は顕著な差はないものの、金曜日が多い傾向にあることがわかります。



時間別災害発生状況



時間別発生状況(上図)を見ると、14時台が突出して多くなっています。深夜・早朝時間帯(22～翌5時)の発生は少ない傾向にあります。

令和2年に発生した休業4日以上労働災害は29人(八丈島11人、大島10人、三宅島3人、新島3人、神津島2人、)で、製造業と建設業で全体の7割を占めています。

「事故の型」では、墜落・転落(9人)、飛来・落下(6人)、転倒(4人)の順に多く、はさまれ・巻き込まれ、切れ・こすれ、動作の反動・無理な動作も複数発生、「起因物」では、トラック、建設用機械、はしご等、その他の用具によるものが複数発生しています。